

令和5年度

# 幼稚園だより 6月号



文京区立千駄木幼稚園

## 体を動かして遊ぶ楽しさ

副園長 矢澤 弘美

園庭の木々の緑が鮮やかな季節です。緑の中で、子どもたちが様々な体を動かして遊んでいる様子を見てみると、こちらもつい笑顔になります。

ある日の園庭では、広いスペースがとれる中央部分にラインが引かれ、年長児が靴鬼を楽しむ姿がありました。一方、雲梯近くの木々の間では、年中組の教師が的をぶら下げ、子どもたちと新聞紙ボールを投げていました。年少児は、そうした年上の子たちの様子を見ながら、丸太小屋を上り下りしたり、滑り台を滑ったりと、固定遊具に繰り返し関わっていました。

日常が戻りつつある今、コロナ禍を過ごした子どもたちの体力、運動能力の低下が懸念されています。本園には、園庭のほかにもホールや広い廊下など、体を動かして遊べる場がたくさんあります。しかし、場があるというだけでは、足りません。そこに「楽しそう」「やってみたい」と子どもたちが興味、関心や意欲をもつような環境の工夫があることで、自分なりに力を出す、楽しみながら繰り返し取り組むなど、体力、運動能力の向上につながる姿が引き出されるのです。

私たち教員は、毎年テーマを決めて園内研究を進めています。今年度のテーマは昨年度に引き続き、『体を動かすことを楽しむ幼児の育成』です。サブテーマは新たに「～場の使い方の工夫を通して～」としました。子どもたちが思わず体を動かしたり、「もう1回やってみよう」と継続して取り組んだりしたくなるような、本園の場を生かした環境構成の工夫を学び合っていきたいと思います。

これから、雨の多い時期になります。雨の日は、保育室や廊下がにぎわい、様々な遊びのアイデアが生まれやすくなります。子どもたちの発想も取り入れながら、園舎内の環境も工夫し、体を動かして遊ぶ楽しさを感じられるようにしていきたいと思います。



年少組

「長い滑り台も楽しいね」



年中組

「ここから投げたら届きそう」



年長組

「どうやったら靴を取れるかな」  
(靴鬼)